

2020 年度 国際漁業学会大会個別報告プログラム

座長	報告課題・報告者	座長	報告課題・報告者
(OATFC 株式会社) 綿貫尚彦	1. ミャンマーにおける水産業の発展可能性  近畿大学 山本祥孝・多田稔	(水産研究教育機構) 宮田勉	8. 岩手県における定置網漁業の漁獲組成の変動  東京海洋大学 及川光
	2. 新技術の普及と在地の論理 —フィリピン・アルタバス町の垂下式カキ養殖と gutom の論理—  東海大学 小林孝広		9. 日本における海洋産業の規模推計と時系列変化の特質  東京海洋大学 毛蕾・婁小波
	3. Inland fisheries management in Argentina: comparative analysis of regional artisanal fishing  Kobe University Hazuki Matsuda	(三重大学) 山田二久次	10. 2国3財での漁業資源財の入った貿易  専修大学 小川健
4. 美味しさの見える化に対する消費者評価—魚用体脂肪計を用いたブランド化に注目して—  三重大学 山田二久次、東京海洋大学 松井隆宏	11. 世界市場における日本のカキに対するブランド価値  水産研究・教育機構 若松宏樹・宮田勉・神山龍太郎		
(東京海洋大学) 大石太郎	5. オイスターバー向け殻付カキの外観品質評価～表明選好による潜在クラス分析～  水産研究・教育機構 宮田勉・神山龍太郎・若松宏樹	報告時間は 17 分とします。説明文の場合は 17 分と相応の分量とします。詳細は国際漁業学会 Website の大会情報をご覧ください「国際漁業学会 2020 年度大会の方法変更に関するお知らせ（第三報）」。	
(東京海洋大学) 中原尚知	6. 輸入タラバガニの流通構造に関する分析  水産庁 村井彩子		
	7. 殻付きカキ養殖における生産工程別投下労働量の地域性  水産研究・教育機構 神山龍太郎・宮田勉・若松宏樹		